



# 知っているようで知らない“とびひ”

# 健康人で行こう!

すい ほう  
**水疱が全身にどんどん広がっていく皮膚の病気です。** 身近な病気です  
から、何となく症状は知っているものの、詳しいことになると知らない  
方も多いのではないでしょうか？ そこで今回は、これから季節に増  
える「**とびひ**」についてお話をさせていただきます。

## “とびひ”の正式名称は？

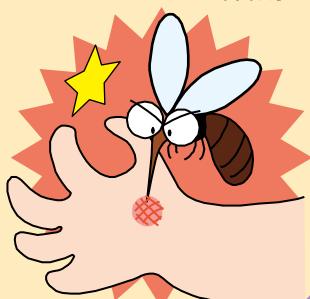
日頃、聞き慣れている「とびひ」、実はこれは正式名称ではありません。「とびひ」の医学的な名称は「**伝染性膿瘍疹**」と言います。

実は2タイプある“とびひ”

ひとくちに「とびひ」と言っても、2つのタイプに分かれています。1つは、**水ぶくれができる「水疱性膿痂疹」**。  
すいほうせいのうかいん  
かひせいのうかしん  
そしてもう1つは、**かさぶたができる「痴皮性膿痂疹」**。  
かん  
この2つはそれ原因が異なり、「症状」や「感  
せん  
染しやすい季節」「かかりやすい年齢」も違います。 それでは、詳しく見てみましょう。

#### タイプ1 「水ぶくれ」ができる水疱性膿痂疹

「とびひ」と呼ばれているのは、主にこのタイプ  
です。 水ぶくれが膿をもち、強いかゆみ<sup>うみ</sup><sup>とくちょう</sup>が特徴。  
搔いた手で体の他の部分を  
触ると、症状が広がってい  
きます。 虫さされや汗疹<sup>あせ</sup><sup>も</sup>がきっかけになりやすい夏  
と7歳未満の乳幼児に多く  
みられるタイプです。



## タイプ2 「かさぶた」ができる痴皮性膿瘍疹

水疱性膿痂疹と同様に膿をもった水ぶくれができる  
ますが、こちらは**皮膚に厚**  
**いかさぶた**が表れます。  
また、**発熱やリンパ節の**  
**はつねつ**  
**せきつ**  
**腫れ**などを伴うこともあります。 1つのタイプとは異なり、**季節や年齢に関係なく**かかることがあります。



“とびひ”を防ぐ日常ケア 1・2・3！

皮膚にできた小さな傷に、細菌が入り込むことで感染・発症する「とびひ」。 日頃のちょっとした心がけで、予防をしましょう！

- 1 患部を搔かない

虫にさされた所や汗疹などの患部は、**搔つめ爪**で傷をつけないようにしましょう。を短く切っておくのも予防のひとつです。
  - 2 入浴で皮膚を清潔に

原因となる細菌は、健康な人の体にいる常在菌です。毎日の入浴で**皮膚を清潔に**して、細菌を減らしましょう。
  - 3 タオルを  
きょうよう  
共用しない

タオルや衣類は同じものを使用せず、各自、**別のものを使用**しましょう。共用すると「とびひ」がうつる場合があります。

虫さされなど“肌トラブル”が多くなりがちな季節です。つい搔いてしまい「とびひ」にならないように気をつけて下さいね。また、**アトピー性皮膚炎の方は要注意です。** ア



# クイズの こたえ

## ② 大阪府

日本初のブラシ会社が大阪に誕生して以来、大阪はハブラシを含むブラシ製造のメッカになりました。今でも**国産ハブラシの5割以上が大阪で生産されています。**（全国のハブラシ製造工場の約4割が大阪府八尾市にあります。）